第14号

2019年1月1日発行

VSCO (Victim Support Center Okayama) 機関誌



「VSCOで学んだことを胸に」

法務大臣 衆議院議員 山下 貴司

国民が安全で安心して暮らせる国であることを実感できる、「世界一安全な国、日本」を創り上げることは、政府として目指すべき大切な任務です。法務省は、国民に最も身近な民法や刑法を始め、各法令の基礎となる基本法制の維持及び整備、法秩序の維持、国民の権利擁護などを任務としていますが、その中でも、犯罪被害者や御家族・御遺族の方々の保護・支援を図ることは、国民の刑事司法に対する信頼を守るためにも極めて重要であると考えております。

法務省においては、平成11年から、犯罪被害者や親族等の方々に対し、事件の処分結果、刑事裁判の結果、犯人の受刑中の刑事施設における処遇状況、刑事施設からの出所時期等を通知する「被害者等通知制度」等の施策を講じてきたほか、平成17年に施行された犯罪被害者基本法及び同法に基づき策定された犯罪被害者等基本計画を受け、犯罪被害者や御遺族等の方々が法廷で心情等を述べることができる「心情等の意見陳述制度」等の施策に取り組んでまいりました。

現在は、平成28年に策定された第3次犯罪被害者等基本計画に基づき、犯罪被害者の方に関する情報の保護や、被害児童からの事情聴取における配慮などの諸施策の推進に努めているところです。また、新たな被害者を生まない社会を実現するという観点からは、犯罪をした者等の再犯を防止することが重要であり、昨年策定された「再犯防止推進計画」に基づき、関係府省、地方公共団体、民間協力者と連携しつつ再犯防止に関する各種取組を推進しております。

私は、これまで VSCO の正会員として活動する中で、民間被害者支援団体の皆様が、いかに 犯罪被害者や御家族・御遺族の方々に寄り添い、きめ細かい支援を行われているかを目の当た りにし、そうした支援の重要性を深く学んでまいりました。

その学びを胸に、私はこれまでも、国会議員として、いわゆるストーカー規制法の改正や、いわゆるリベンジポルノ対策法の制定など、被害者救済のための議員立法に携わってまいりましたが、引き続き、犯罪被害者やその御家族・御遺族の方々の声に真摯に耳を傾け、どのようなことができるかを考え、犯罪被害者支援に取り組んでまいりたいと考えております。

皆様、今年もどうぞよろしくお願いいたします。皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、今後も一緒に活動できることを楽しみにしております。

●●●●●●●VSCOこの1年のあゆみ(事業報告)

2018年1月~2018年12月

	2018年1月~2018年12月
事 業 名	実 施 内 容
電話面接相談・ 直接支援など	最近は特に、性的被害の相談が多くなっており、こうした状況に対応するために、平成28年9月20日「性犯罪被害者等支援センターおかやま」を立ち上げ、性犯罪被害に特化した専用電話で性犯罪被害者支援に精通した支援員が相談等に応じました。
支援員の養成と 支援体制	基礎講座を5月から7月まで6回実施、44名(大学生35名、一般9名)が受講。中級講座は7月から9月まで6回実施、5名が受講し、最終の講座修了者は5名でした。 講座修了者のうち、2名を支援員に採用しました。平成30年11月30日現在の支援体制は、犯罪被害相談員6名、犯罪被害者等給付金申請補助員4名、電話・面接相談員25名、犯罪被害者直接支援員17名、自助グループ支援員4名、事務局職員4名となっています。
研 修	全国被害者支援ネットワーク主催の全国研修会、中四国ブロック研修会に参加したほか、 VSCO 独自の継続研修として、ほぼ月1回、事例に基づき支援のあり方等について、研修し ました。
	機関誌の発行 1月に機関誌「いつでもそばに」第13号を4,000部発行し、会員等へ事業内容、活動状況等の報告を行うとともに、フォーラム等の参加者に配布し、VSCOのPRを行いました。 「いのちと魂のメッセージ」のパネル展 市民のつどい、フォーラム、官公庁のロビー等で開
	催し、被害者の声を発信しました。
	9月29日 (土) ピュアリティまきび(岡山市) 参加者 90名 基調講演 「性犯罪被害に遭うということ〜被害者の私が自分らしく生きる選択〜」 講師 早川恵子氏 報告 被害者支援の現状について 報告者 VSCO支援員 家野昌子
広報・啓発	岡山県警委託事業11月25日(日) ピュアリティまきび(岡山市) かな 参加者 400名基調講演 「いのちの重さを見つめ続けた 17年~愛しみと共に生きる~」講師 本郷由美子氏ミニコンサート あした彩音楽隊 「Over The Rainbow」による演奏
	岡山市との共催事業 7月9日(土)岡山市地域ケア総合推進センターにて開催予定だったが、西日本豪雨により中止。平成31年2月9日(土)ピュアリティまきび(岡山市)にて開催予定。 情報の発信
	①ホームページで、VSCO の毎日の情報を発信しています。②フォーラムの開催案内をしています。③ラッピングバス (1台) による「性犯罪被害者等支援センターおかやま」のPRをしています。
募金活動	赤い羽根共同募金の「テーマ募金」で「地域ささえあいプロジェクト」に参加しました。 この募金活動で、目標額を集めることができました。
自販機の設置	犯罪被害者支援自動販売機設置のご協力をいただき、たくさんの寄付金をいただきました。 (11 頁参照)
助成事業の実施	日本財団の預保納付金助成事業(犯罪被害者支援に関わる人材育成事業)を実施し、支援 員に対する研修を行いスキルアップを図りました。

VSCOに感謝状

11月25日、岡山県警察本部長から、感謝状と盾が贈呈 されました。

これは、長年にわたる被害者支援活動等に対して贈られたものです。





2018 年度総会の開催

6月23日、2018年度定時社員総会を岡山市北区平和町の「後楽ホテル」で開催しました。2017年度事業報告 を行い、同年度決算書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録が承認されました。また、9名の理事、2 名の監事が選任されました。

- 図鑑任された理事 嶋村稔、難波光、若林久義、中島豊爾、真邉和美、今村恵美子、川野豊、加藤裕司 松村正基
- O **選任された監事** 森本治雄、澤畑優太
- 〇 感謝状の贈呈

・正会員10年の個人 1名 高原俊彦

7名 長崎 司、船田幸枝、(匿名希望5名) ・賛助会員歴 10 年の個人

· 多額寄付(団体) 7 団体 (公財) 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

> (株) 倉敷アイビースクエア、みのる産業(株) みのる化成株、岡山理科大学、株大本組

JXTGエネルギー(株)

· 多額寄付 (個人) 1名 (匿名希望) · 事業推進協力団体 1 団体 岡山電気軌道㈱

○ 2017年度収支報告書(概要)

(収入) 正会員及び賛助会員会費、地方公共団体補助金・負担金、地方公共団体委託費、民間助成金、寄付金、 雜収益等=合計31,107千円

(支出)相談事業費、直接支援事業費、相談員等養成研修事業費、広報啓発事業費、管理費等=合計 29.967 千円 当期経常増減額は1,140 千円の増額で、当期一般正味財産増減額は、経常外増減額(会費徴収不能額)△390 千円を加えて750千円の増額となった。

○ 2018年度事業計画(重点目標)

2018年度は、次の諸点を重点目標として、特色ある活動を行う。

- (1) 犯罪被害者支援のための活動を、常時多面的かつ総合的に展開する。
- (2) 関係機関との連携を深める。
- (3) 地域の総合力を生かした活動を展開し、また広報啓発に努める。
- (4)「性犯罪被害者等支援センターおかやま」の相談体制の見直し等を行う。
- (5) 財政基盤を確立強化する。

基調講演

演題 「被害者支援の現状ついて」

(公益社団法人) 全国被害者支援ネットワーク 理事

(公益社団法人) 広島被害者支援センター専務理事兼事務局長 岡野政義氏

※ 社員総会後の理事会において、業務執行理事として嶋村稔、難波光が選定されました。

〇 平成 30 年度の役員等

顧 問 村田吉隆 (元国務大臣・犯罪被害者等施策担当)

岡崎 彬 (岡山商工会議所会頭)

皆木英也 (公益財団法人岡山県暴力追放運動

推進センター元専務理事)

松田 久 (岡山経済同友会代表幹事・両備ホールディン グス(株)代表取締役社長)

代表理事 平松敏男

業務執行理事 嶋村 稔、難波 光

玾 事 若林久義、中島豊爾、真邉和美、今村恵美子、川野 豊、 加藤裕司、松村正基

監 事 森本治雄、澤畑優太

事務局長 藤原 一徳

2017 年度収支報告書(概要)

		(単位:千円)
会費	(正会員・賛助会員)	2,832
地方	公共団体補助金	1,555
民間	助成金	16,651
地方	公共団体委託費	6,996
寄付	金	2,977
雑収	益	96
	経常収益合計	31,107
八	相談事業	13,402
益	直接的支援事業	1,939
公益目的事	養成・研修事業	1,724
事業	広報啓発事業	3,224
未	公益目的事業共通	1,434
法人会計		8,244
	経常費用合計	29,967
当期経常増減額		1,140

子どもの性被害とVSCOの支援

保育園児A君

保育園に通う男の子A君は、近所に住む中学生の男の子に家の近くでパンツを脱がされ、体を触られました。被害に遭うのを見ていた兄弟から話を聞いたお母さんが、警察に通報し、警察から VSCO につながりました。

事件後、A君は、兄弟の下着を脱がしたり、家にあるぬいぐるみに自分がされたのと同じことをするなどしました。被害にあった精神的なショックからか、事件前にはしなかった指しゃぶりを始めたり、保育園で小さい女の子を後ろからけったりなど乱暴な行為をするようになりました。A君のお母さんは、ショックを受け、A君の将来が不安になりました。

カウンセリングを行った臨床心理士から、A君は、児童精神科医を受診したほうがよいと言われましたが、精神科を受診する費用がありませんでした。そこで、VSCOの犯罪被害者支援金を使い、受診には支援員が付き添いました。A君には他にも兄弟がいたので、毎回受診時には、支援員が子供たちのお守りもしました。長い診察の待ち時間の間、待合室で支援員はお母さんの気持ちを聴きとりました。A君の主治医の勧めで、お母さんも別の心療内科を受診しました。お母さんの受診にも、VSCOの犯罪被害者支援金を使いました。

加害者の中学生は**児童相談所**に送られましたが、処分もわかりません。加害者に出会うのが不安なA君一家は、**引っ越し**をしました。VSCOに来るのが難しかったため、支援員は、自宅を訪問して、面接も行いました。引っ越し先の小学校に進学し、元気な小学生になりました。



保育園児Bちゃん

保育園に通う女の子のBちゃんは、公園に遊びに行って、近所のおじいさんに、下着の上からからだを触られるわいせつ行為をされました。事件のショックで、Bちゃんは、「こわい」、「気持ち悪い」などと言い、吐き気がするなどの症状が出ました。また、夜遅くまで眠れず、眠ったと思うと突然、大きな声をあげ、わけのわからないことを言って突然起きだすようになりました。

Bちゃんのお母さんは、どのように対応したらよいか、VSCOに相談電話をかけてきました。支援員は、面接で、**性被害にあった子どもの心理と親の対応**について説明しました。Bちゃんが不安な気持ちになったときには、お母さんがBちゃんを抱きしめること、暗くなったらBちゃんと一緒に過ごすこと、夜は一緒に寝ることです。Bちゃんのお母さんは、被害についての相談は誰にもできませんでした。支援員は、お母さんの心配な気持ちを丁寧に聴きました。

Bちゃんの家族は、加害者が近所なので、おじいさんのうちに行き、謝ってもらおうとしました。今後の対応を聞き、それによっては警察に行くことにしました。近所でも、そのおじいさんに抱きつかれた子どもが何人かいましたが、おじいさんの妻は、「かわいかったから、そんなことをしたのでしょう」と、Bちゃん家族の深刻さがわかっていません。そこで、警察に相談をしました。おじいさんは、認知症の疑いがあるということがわかりました。妻ではおじいさんの監督ができないので、他県に住む息子が引き取って監督することになりました。それまでは、警察官が、**見回りを強化し**てくれました。

お母さんが安心すると、Bちゃんも徐々に安定しました。



小学生Cちゃん

Cちゃんは、家の近くのお店に、近所のおともだちと一緒にたびたび遊びに行っていました。お店をひとりで経営しているDは、子どもたちが来るとお菓子や小銭を与えたりしていました。「あのお店で写真を撮ってもらうと、お金をくれるらしい」といううわさが広まり、それを耳にした学校が、警察に通報しました。

Dは、子どもの全裸の写真を自分のパソコンに保存していたため、「児童買春、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律違反」で逮捕されました。

警察からの連絡で VSCO とつながりました。 C ちゃんのお母さんは、最初この事件を知ったときは「お金をもらって写真を撮らせた C ちゃんが悪い」と、 C ちゃんの方を責めていました。事件発覚後、 C ちゃんは、 ストレスからか喘息を発症しました。「弁護士に頼むと、お金がかかる」と、心配する C ちゃんのお母さんでしたが、 VSCO は、犯罪被害に精通する VSCO の協力弁護士にお願いし、費用は、法テラスで負担してもらいました。

「裁判のことはよくわからない」と言うCちゃんのお母さんに、弁護士や支援員は、裁判のことなどを何度も丁寧に説明しました。支援員は、「悪いのは、巧みに幼さに付け込んだ加害者で、Cちゃんは悪くありません。犯罪被害にふたをしてしまうよりも、ふたをあけてまわりがケアをしていくことが、Cちゃんの回復につながります。お母さんが逃げるのでなくて、裁判の中でめいっぱいできることをしていくことで、事件のこともわかります。そうやっていくことで、これから思春期になるCちゃんにも向き合うことができると思います」と、お母さんを支えました。支援員は、弁護士相談や検察庁にも付き添いました。

Dの裁判の時、C ちゃんのお母さんは、法廷で自分と C ちゃんの気持ちを自分の口から話すため、「被害者参加制度」を利用することにしました。「意見陳述書」の作成は支援員が手伝いました。法廷では、ついたてで傍聴人や加害者から見えないようにして自分と C ちゃんの思いを語りました。 D は、実刑になりました。

C ちゃんの母親は、D から C ちゃんを守るため**転居**しました。「支援してもらって、裁判もできて良かったです」と、言われました。



子どもが性被害に遭ったとき

- 「嘘でしょう」と否定しないで聴きましょう メモを残す。できれば録音・録画(スマホでも)
- ・触られたら、証拠を残しておきましょう お風呂やシャワーは厳禁・服は洗濯しないで保存
- 無かったことにしないようにしましょう再被害防止のために警察へ

子どもへの対応

- 話してくれた勇気をほめましょう 「あなたは悪くない」と伝える
- ・聞き過ぎないようにしましょう 簡潔に「誰に」「何をされたか」を聞く 詳しい聞き取りは専門家
- ・生活リズムを大切にしましょう 保護者も動揺しますが、子どもの安心を

性被害に遭った子どもの反応

性的な被害は、子どもの心に強いショックを与え、次のような反応が出ることもあります。

- ・身体の反応 眠れない・手足の震え・発熱
- ・こころの反応 イライラする・集中力の低下
- **行動面の反応** 赤ちゃん返り・性的な行動

大丈夫そうに見えても、感情がこおりついて麻痺していたり、おとなを心配させたくないため、**何事もないようにふるまう**こともあります。

小学生 E ちゃん

小学校高学年のE ちゃんは、**小学校の担任教師** F から約3か月にわたって**性暴力**を受けました。E ちゃんは、友人に被害を打ち明け、友人の母親から学校の知るところとなりました。

当初、E ちゃんの両親は、**加害者の名前をマスコミに公表**してほしいと要望していました。社会的な制裁を加えたかったからです。VSCO の協力弁護士は、加害者の名前が分かると学校が特定され、E ちゃんの名前も分かり、マスコミが家に押しかけたりするので、マスコミには公表しない方が良いとのアドバイスをしました。警察と相談して、一切マスコミには公表しないことにしてもらいました。学校に対しても、ほんの一部の関係者以外に事件を知らせないように要求しました。

E ちゃんの両親は、迷ったあげく勇気をだして警察に相談し、刑事事件となりました。 当初、学校側は、警察への通報をためらっていました。学校・教育委員会が、E ちゃん 家族の意向を無視して警察に届け出なかったことに、E ちゃんの両親は、大きなショッ クを受けました。VSCO の協力弁護士を通して学校・教育委員会と何回も交渉した結果、 新しい担任の先生に対する信頼が回復し、学校の被害者の気持ちに対する理解が次第に 得られるようになりました。しかし、E ちゃんは、現在でも付き添いがないと学校へ行 けない状態です。

Fの裁判では、E ちゃんの母親と VSCO の協力弁護士が被害者参加し、母親が意見陳述をし、協力弁護士が F に対する証人尋問・被告人質問・被害者論告(被害者が、意見を述べること)を行いました。裁判で、F は、「強制性交等罪」で、懲役 5 年の実刑となりました。



中学生Gさん

中学生のGさんは、小学校高学年の時から義理の父親に身体を触られ、レイプされ そうになりました。Gさんは学校の先生に訴え、先生が**児童相談所に通報**し、Gさんは すぐに児童相談所に保護されました。義理の父親は逮捕されました。警察から勧められ て、Gさんのお母さんが VSCO に電話をかけてきました。

G さんのお母さんは、事件を知って住んでいた家を出てアパートを借りました。G さんは、児童相談所からお母さんのところに帰っても、学校へ行けないことが続きました。VSCO の支援員は、G さんに会うため、お宅を訪問しました。G さんは常に頭痛があり、男の人が近くに来ると義理の父親のように思え、緊張してしまいます。夜も眠れないし、他人に会うのも嫌になりました。「自分は他の人と違うのだ」と、思えてしまい、気持ちが沈んでしまいます。精神科の受診が必要なので、VSCO は、犯罪被害に精通した精神科を紹介し、受診につなげました。経済的にも困窮していたため、VSCO の犯罪被害者支援金で、診察代、薬代、交通費を負担しました。診察には、VSCO の支援員がいつも付き添いました。お母さんは、義理の父親の裁判を傍聴しました。VSCO の支援員は、お母さんに付き添いました。傍聴ができないときは、VSCO の支援員が代理傍聴し、裁判の様子をお母さんに伝えました。



母子家庭になってからの行政の手続きが、煩雑で時間がかかりました。市役所の窓口に VSCO の支援員がついて行き、そのサポートも行いました。

Gさんは、高校へ進学し、大学を目指しています。

中学生Hさん

中学生のHさんは、学校の帰りに待ち伏せしていた同級の加害少年Iから、公園のトイレに連れ込まれ、「殺すぞ」と脅迫され、目隠しをされたうえ強制わいせつ行為をされました。

加害少年 I は、事件直後逮捕され、**家庭裁判所**に送られました。H さんは、VSCO に電話で相談してきました。VSCO の協力弁護士が、学校と教育委員会に手紙を出し、学校と教育委員会はどのように対応するのかの質問をしました。学校からは連絡があり、校長先生、副校長先生、教頭先生が協力弁護士のところにやってきて、今後の対応について話がなされました。H さん及び両親は、本事件により大きな精神的ダメージを受け、今後の不安も大きいことから、VSCO の協力弁護士は、学校を通して加害少年 I 側に次の**要望**をしました。

- ① 被害少女と日常生活でも会わないようにしてほしい
- ② 県外の学校に転校してもらいたい
- ③ 被害少女が通う高校と顔を合わさない高校へ行ってもらいたい
- ④ 被害少女と顔を合わさないように住居を変わってもらいたい

I側からは、しばらく経って、代理人弁護士を通してIの父及び祖母の謝罪がなされ、できるだけ顔を合わさないように努力するとの回答がありましたが、具体的な回答はありませんでした。また、Iは、非行を否認したままでした。

少年事件については、刑事事件のように被害者参加制度はないので、被害者参加制度 により**被害者が意見を述べることはできません**。しかし、

少年事件においても、家庭裁判所に対して被害者が意見を述べる3つの方法があります

- ① 審判の場で裁判官に対して意見を述べる
- ② 審判以外の場で裁判官に対して意見を述べる
- ③ 審判以外の場で家庭裁判所調査官に対し意見を述べる

Hさんの両親は、③の方法により、VSCOの協力弁護士立会のもとで家庭裁判所調査官の調査で意見を述べ、さらに調査で述べなかったことについて、詳細な意見補充書を提出しました。

加害少年に対する審判の結果は、被害者に対しては通知されません。したがって、審判がいつなされ、審判の内容がどのようなものであったかについては、被害者である日さん・両親・代理人弁護士には分からないのです。そのため、審判結果がどのようなものであるかについて被害者側は大変不安な時期を過ごすことになります。

そこで、VSCOの協力弁護士から家庭裁判所に対し、審判結果等の通知申出をした結果、加害少年に対する審判結果は、「**少年院送致**」でした。しかし、加害少年は、非行を否認しており、審判に対する不服申立て(抗告)をしました。抗告を受理した裁判所は、抗告を棄却しました。少年は、さらに最高裁判所に対し不服申立てをしましたが、最高裁判所も棄却しました、

少年院送致された少年が、少年院においてどのような処遇をされているのかを知るために、少年鑑別所に対し、**加害者処遇状況等通知希望**申出をし、加害少年の処遇の状況、退院の時期等を知らせてもらいました。**審判結果通知制度**を利用し岡山家庭裁判所に審判の結果を知らせてもらいました。このため、H さんと両親は心の整理と対応ができました。現在、H さんは、元気に高校に通っています。



高校生Jさん

高校生のJさんは、夏休みに他県に遊びに行き、知り合いの男性にレイプされました。 Jさんは、その後、体調不良で受診した総合病院で妊娠が判明しました。本人も、J さんのお母さんも中絶を希望しました。しかし、医師から、「相手の同意がないと中絶 はできない」と、言われ、困ったお母さんが VSCO に電話をかけてきました。VSCO の支援員は、病院の相談室を用意してもらい、Jさんとお母さんと VSCO の支援員が、 相談室で面接を行いました。

母親が警察に相談すると「事件場所の警察署へ連絡するように」と、言われました。 事件が他県で起こったため、出向いての届け出は負担が大きく、届け出は断念しました。 VSCO は、VSCO の協力弁護士を紹介しました。弁護士との面接で、Fさんは、「『い やだ』、と言いましたが、脅され、力が強くて逃げられなくてレイプされました」と、 話しました。弁護士が医師に「強姦と認められる」と伝え、相手の合意がなくても、保 護者の同意だけで「母体保護法」により、中絶ができました。弁護士費用は法テラスの 制度を利用し、負担はありませんでした。中絶に関する手続きに時間がかかり、妊娠中 期に入り入院が必要で、費用も30万円と多額でした。市の被害者支援窓口担当者の協 力で、市から病院へ中絶にかかる費用を全て直接支払ってもらうことができました。

後日、母親から「費用負担なく、無事手術ができ、元気を取り戻すことができました」 との連絡がありました。



学生の特別支援学級のKさん

Kさんは、遊びに行った帰りに駅で知らない男性に呼び止められ、障がい者トイレに連れ込まれてレイプされました。Kさんは、そのことを周囲に打ち明けることができませんでした。Kさんのお母さんが、お風呂に入っている Kさんの様子を見て、妊娠に気づきました。 悪質な加害者に障がいを利用されて被害に遭う知的障がい者もいます。被害に遭ったことも言えず、自分の妊娠に気づかないこともあります。病院の産婦人科に行った Kさんのお母さんに、窓口の人が「VSCOに相談したら」と、アドバイスをし、VSCOとつながりました。VSCOの支援員は病院に出向き、病院の相談室を借りて面接も行いました。Kさんのお母さんは警察に相談に行き、被害届を出すことにしました。



K さんは、警察で警察官の問いかけにきちんと答えることができませんでした。日時 も場所も特定できず、事件化されませんでした。K さんは、中絶手術を受けました。 お母さんは、「中絶できて良かったです。ありがとうございました」と言われました。 知的障がいがある被害者の場合、警察へ被害届を出すことも困難な事例が多くありま す。

性被害者のための緊急支援金

警察に被害を相談した場合、産婦人科での初診料、緊急避妊措置経費、人工妊娠中絶経費、診断書料等の自己負担額を「性被害に関する公費負担制度」で負担してくれます。しかし、警察に相談することもできない被害者もいます。VSCOは、VSCOの性被害者のための緊急支援金制度をつくっています。被害後72時間以内の性被害者に対し、初診料、検査料、緊急避妊措置経費をVSCOが負担します。

フォーラム(平成30年1月~12月)

「性犯罪被害に遭うということ」 ~被害者の私が自分らしく生きる選択 ~ 岡山県との共催で、「犯罪被害者支援フォーラム in おかやま」 岡山市のピュアリティまきび 9/29

2010年から何度も VSCO フォーラムの座談会・ライブ&トークなどに来ていただいていた PANSAKU のぱんさんこと早川恵子さんが、二人のお子さんの母親になっておられました。

命の危険を感じた

早川さんは、2004年、仕事をしながら音楽活動もしていた帰り道に、突然、車に乗り込んできた見知らぬ男性からレイプされました。首を絞められ、「殺すぞ」と脅され、命の危険を感じました。被害後警察に行きますが、ある瞬間から、「辛さも痛さも感じない」状態になりました。これは、解離という状態だそうです。その時は、警察官の問いかけに冷静に答えることができ、何人もの警察官に何度



講師 早川 恵子氏

も何度も事件のことを詳細に話しました。しかし、そのことが、後でいっそう早川さんを苦しめました。

警察と病院での二次被害

警察では、事件のことは多く聞かれましたが、「あなたは大丈夫?」とは尋ねられず、また、「話したくなければ、話さなくて良いから」という、選択も与えられませんでした。「**選択肢を提示することが、一人の人としてみている**ことになるのです」と、早川さんは、言いました。二次被害を多く受けた警察署でしたが、早川さんが、こらえきれずに号泣してしまったとき、一人の男性警察官が、「ごめんね」と何度も言ってくれ、その警察官の顔だけは覚えているそうです。

産婦人科では、産婦人科医が、**きちんとした説明**もせず検査をしました。声もかけられず体を触られ、そのとたん、電気が走ったように身体が痛んだそうです。事情聴取の時は淡々としていた早川さんですが、12 時間にわたる事情聴取が終わって家に帰ったら、立って歩けなくなり這って移動するしかありませんでした。

1 年後からの PTSD

仕事には早く復帰し、被害に遭ったことを忘れようと働きました。一年くらいは何もなく、忙しくしていましたが、ある時、電車でスーツ姿の男性が前を通ったとき、パニックを起こしてしまいます。その男性の香水が、加害者のにおいと同じだったからです。それを契機に、記憶が呼び覚まされ、フラッシュバックが始まりました。被害によって自尊心を傷つけられたからか、自分を責め、自分には価値がないと、自殺衝動・体調不良に苦しみました。そんな時、何人かの友人が早川さんを支えてくれました。「あなたは悪くない」「あなたはいていいんだよ」と、言い続けてくれた友人によって、「被害前の自分には戻れないけれど、自分らしく生きる道がある」と、思えるようになったそうです。

【 被害者を励ます講演とライブ 】

その後、被害体験を元にした作詞曲「STAND」を発表し、Saku さんと「PANSAKU」として、全国各地で講演・ライブを行いました。また、結婚し、二人の子どもを出産。子どもが生まれてから、「自分では何もできず、仕事もできなかった自分」が、頼られる存在になり、いろいろな不安や不調がなくなったそうです。

現在は、子育てをしながら、ひとりで講演活動をされています。



2015年、やまがた被害者支援センター・東北芸術工科大学・山形県警の連携での「**心つなぐんぼプロジェクト**」のテーマ曲『君のとなり』という曲をつくり、早川さんのギターと歌に合わせて、大学生達が動画をつくりました。そのミュージックビデオに、会場は温かい感動に包まれました。

最後に、早川さんは、「被害に遭っても自分らしく生きる道があるんだ、ということを歌を通して伝えていきたい」と、語りました。 (IM)

このビデオは、やまがた被害者支援センター HPの「心つなぐんぼ」から視聴できます。

犯罪被害者支援フォーラム 2018 in おかやま

<u>岡山県警察本部・岡山県との共催</u>岡山市のピュアリティまきび 11/25

講演『いのちの重さを見つめ続けた 17年』 ~愛しみと共に生きる~

生きる希望を失った

大阪教育大学付属**池田小学校児童殺傷事件**被害者の遺族である本郷由美子さんが、講演を行いました。2001年、刃物を持って突然校舎に侵入した加害者が、児童を次々に襲い、本郷さんの大切なお嬢さん優希ちゃんを含む小1小2の児童8人が殺され、15人が重軽傷を負いました。

当時2年生だった優希ちゃんを亡くした本郷さんは、自尊心、環境、あたり前の日常、生きる基盤を失ったそうです。犯罪による被害は、**加害者への恨みや憎しみ**が生じるため、家族を失った悲しみだけではありません。自宅の玄関に毎日塩をまかれたこともあり、「生きる希望を失った」状態でした。

再生

犯人に教室で刺された優希ちゃんは、廊下まで逃げて倒れていました。その 血痕の残る廊下を本郷さんは、何度も歩きました。その距離、68 歩でした。「最 期まで、一生懸命に生きようとしていた。自分も自分にできることをしようと 思った」そうです。本郷さんは、心に傷を持つ人を対話で癒す「精神対話士」 の資格を取得し、現在は、犯罪被害者や被災者らから話を聞く「グリーフケア



講師 本郷 由美子 氏

の資格を取得し、現在は、犯罪被害者や被災者らから話を聞く「グリーフケア (悲しみのケア)」の活動を行っています。

17年以上たっても、「悲しみ」は癒えません。思慕の情はつのります。しかし、本郷さんは、周囲の人に支えられて**再生**できたと言います。「恨みや憎しみの感情も**プラスに変えられる**」と、活動しました。「冷たい川に入っている人には、言葉をかけるよりも、一緒に川に入って冷たさを感じる、それが共感すること」と、被災者の手をとる姿が、NHKの番組でも取りあげられました。

一人ひとりの**命の価値**を気づいてもらうことで、命の尊さを伝える活動を続けたいと、語りました。(I)



大学生ボランティア「あした彩」

岡山県内の11大学・短大の学生ボランティア 組織の連絡会「あした彩」が、大学ごとに**犯罪** 被害者支援の活動報告を行いました。

メンバーは、岡山大、環太平洋大、岡山理科大、 岡山県立大、岡山商科大、倉敷芸術科学大、ノ ートルダム清心女子大、川崎医療福祉大、川崎 医療短大、山陽学園大、倉敷市立短大の200人 余りです。



あした彩音楽隊「Over the Rainbow」による演奏

「あした彩」メンバーの女子7人が、**県警音楽** 隊隊長の指揮のもと、県警音楽隊1名とともに 演奏を行いました。



学生ボランティアによる司会 ノートルダム清心女子大学 光畑 舞さん 土井原 華苗さん

VSCOからのお願い

犯罪被害者支援自動販売機の設置にご協力ください

VSCOでは、関係各位のご協力により、VSCO支援自販機を設置していただいています。

自販機の設置により、設置者から、販売手数料の全部または一部を寄付していただくものです。寄付金は、犯罪被害に遭われた方やそのご家族、ご遺族の支援に充てられます。社会貢献の一環として、この自販機を設置していただける方や団体を募集しています。設置を検討していただける場合は、VSCOの事務局へご連絡ください。







イツの森 ド

岡山瀬戸店 美川コミニュティハウス

たくさんのご寄付をいただき、ありがとうございました。

[自販機設置場所]

※名称は設置場所、設置順に記載

慈圭会慈圭病院、岡山県看護協会、(株)フジワラテクノアート、天野産業(株)、備前自動車岡山教習所、備前自動車備前教習所、(株)岡田商運(2台)、倉敷中央病院1F(2台)、手打ちうどん名玄(2台)、西の屋赤坂店、ドコモショップ平井店、ドコモショップ総社店、ドコモショップ津山店、ドコモショップ岡山瀬戸店、西山ファーム、西の屋湯郷店、(株)西山組、西の屋菊ヶ峠店、西の屋美作店、環太平洋大学(2台)、ナカシマプロペラ(株)、ドイツの森、(株)セキュリティハウス、みのる産業本社(株)(3台)、みのる化成工場(株)(6台)、JXTGエネルギー(株)、エムシー・ファーティコム(株)(5台)、LEAP JAPAN、岡山理科大学(6台)、(株)大本組、モリマシナリー(株)、三菱自動車工業(株)水島製作所、JFEスチール(株)、吉備国際大学、倉敷マスカット自動車教習所、小金井自動車学校(栃木県)、神戸西インター自動車学校(兵庫県)、千田組(2台)、新見自動車教習所、新相模湖自動車教習所(神奈川県)、太秦自動車教習所(京都府)、サンラヴィアン(2台)、富士センチュリーモータースクール御殿場校(静岡県)、総社花萬(株)(セレモニー天原他2台)、JR伊部駅南口、福山城西病院(広島県)、サンコー印刷(株)(2台)、岡山西大寺病院、アットパーク大供第2駐車場、新見公立大学(2台)、玉野総合医療専門学校、済生会病院1F、友田たばこ店、何大成玩具、アップル歯科クリニック、横井コミュニティハウス、グッドライフグループ津高介護センター、(株)大本組・梶岡建設・田村工務店JV新津山国際ホテル作業所(4台)、積水ハウス(株)倉敷市営中庄団地整備作業所、(株)大本組・中村建設(株) V月田本トンネル作業所(2台)、大本組・志多木組JV井原中学校作業所(2台)、(株)大本組(玉島)(2台)、津島新野(フジワラ)、美川コミュニティハウス、(設置台数96台)

[協力ベンダー会社]

ヒカリエンタープライズ、ジャパンビバレジHD、コカコーラボトラーズジャパン、キリンビバックス、FVジャパン、サントリービバレッジ、ネオス、野口商店、藤田商店、スギノ、日東ベンディング、コーシン、吉商、サンシャイン、伊藤園、岡山ペプシコーラ販売、宮本ストアー

本で広がる支援の輪~ホンデリング~にご協力ください

不要になった書籍を、所定の申込書とともに、段ボール箱や紙袋にお詰めいただき、段ボール箱等の表面にVSCOのホームページからダウンロードした申込書を貼ってください。

(申込書は、VSCO 事務所から郵送することも出来ます。)

ただし、ISBNのない本、百科事典、個人出版本、雑誌は取り扱いできません。



募金箱の設置をお願いします

店舗、病院、企業等にVSCOの募金箱を置かせてください。

12月31日現在、岡山県遊技業協同組合の加盟店・病院・美容院・喫茶店等59か所に設置していただいています。

正会員・賛助会員になって、VSCO をサポートしてください

年会費は、次のとおりです。

正会員 個人 1 口 10,000 円 賛助会員 個人 1 口 2,000 円

団体 1 口 30,000 円 団体 1 口 10,000 円

被害者支援活動の実施状況

2018年1月~12月分

1相談件数

■電話(継続相談を含む) 400(月平均 33.3)

■面接(継続相談を含む) 25(月平均 2.1)

■面接相談の端緒

電話相談後	23	他機関の要請	2
その他	0	計	25

2相談の内訳

■男女別相談件数(継続相談を含む)

男 114 女 311 不明 0 計 425

■相談(被害)内容(継続相談を含む)

被害内容	件数	被害内容	件数
殺人・傷害致死	13	交通死亡事故	13
強盗 (致死傷)	0	交通事故	2
強制性交等	82	財産的被害	23
強制わいせつ	45	DV	21
その他の性暴力	26	ストーカー	31
暴行・傷害	38	虐待 (いじめ)	6
その他の身体犯	0	その他	125
危険運転致死傷	0	計	425

3紹介(件数)

岡山弁護士会	2	県消費生活センター	8
LA岡山	0	交通事故相談所	0
法テラス岡山地方事務所	3	「おかやま被害者支 援ネットワーク」加	0
精神科医	2	盟機関(上記以外)	U
臨床心理士	0	警察	0
県女性相談所	0	上記以外の機関	18
県中央児童相談所	0	計	33

4直接的支援関係(回数)

警察関連支援		行政窓口等付添	
警察への付き添い] 14	県女性相談所への連絡・付添い	
被害届・告訴状の提出サポート		県・市児童相談所への連絡・付添い	11
被害者連絡制度の利用		関係機関連絡会議への出席と連携	11
警告等の申出のサポート		公営住宅等の確保等	
検察庁関連支援		引っ越し・住民票開示等	
検察庁への付き添い		病院付添い	
被害者等通知制度の利用	18	病院(産婦人科医含む)紹介・付添	27
不起訴記録の開示	10	エイズ検査への立会	37
検察審査会への申立など		精神科医の紹介・付添い	
出所情報の確保など		自宅訪問	2
裁判関連支援		生活支援	1
弁護士相談への付添い		宿泊施設提供	1
刑事裁判・審判への付き添い		その他	
代理傍聴	82	法テラスへの付添い	
意見陳述のサポート		仲裁センターへの付添い	0
保護命令申立など		マスコミ対応	
証人の遮蔽・ビデオリンクなど		その他	
		自助グループ	13
		自助グループ開催	13
合計 179			

5 犯給金等申請の補助(申請した件数)

犯給金申請のサポート	1
犯罪被害者遺児等に対する奨学金給付のサポート	0
まごころ奨学金申請のサポート	0

6 支援金(支給した件数)

全国ネット被害者緊急支援金の給付	
VSCO 犯罪被害者支援金の支給	8
VSCO 性犯罪被害者緊急支援金の支給	0

「性犯罪被害者等支援センターおかやま」の相談状況

2018年1月~12月分

1相談件数(継続相談を含む)

66 (月平均 5.5)

2相談の内訳

■男女別相談件数(継続相談を含む)

男 9 女 57 不明 0 計 66

■相談(被害)内容(継続相談を含む)

強制性交等	30
監護者性交等	4
強制わいせつ	8
その他の性被害	11
DV	2
ストーカー	1
その他	10
計	66

3相談の端緒(件数)

HP	13
警察教示	1
ナビダイヤル	2
タウンページ	2
友人	2
他機関	8
不明	12
計	40

4 他機関等紹介(件数)

病院	1
男女共同参画男性相談	1
精神保健センター	1
岡山弁護士会	1
法テラス	1
VSCO	11
計	16

VSCO の養成講座・・・・支援の輪を広げましょう

岡山県下27の市町村すべてで犯罪被害者支援条例が施行され、犯罪被害者支援の窓口もあります。 市町村の担当者、岡山保護観察所の被害者担当保護観察官・被害者担当保護司もVSCOの養成講座を受 講しました。

市役所被害者担当窓口

倉敷市役所 生活安全課 高見 晋太郎さん

被害者からの相談を受ける際には、選択肢を用意して被害者の自己決定を尊重することが非常に大切であると感じました。そして、「あなたは何も悪くない」と伝えることが、被害者の心の支えになることを知りました。

今回の被害者支援員養成講座で学んだこと を今後の被害者支援に活かしていきたいと考 えています。 津山市役所 環境生活課 影森 寿彦さん

平成29年度に現在の職場に配属となり、当時は、実際に被害者の方に、どのように対応して良いのか常に不安でありました。

この養成講座を受け、『被害者の方に寄り添う』という言葉が非常に印象に残りました。

今回の講座受講後、市民の方から受ける様々 な相談について『相談者の方に寄り添う』対 応を心がけております。

岡山保護観察所 被害者担当

被害者担当保護観察官 伊藤 和幸さん

昨今「○○ファースト」という言葉をよく耳にしますが、研修を通して被害者の方お一人おひとりがファース



被害者支援員養成講座

トになっていない状況下で、二次被害等で深く傷ついていらっしゃる現状をあらためて重く受け止めることができました。本研修は、被害者担当としての視点の切り替えとともに被害者支援に携わる姿勢について深く考える良い機会となりました。

被害者担当保護司 水舟 雪枝さん

被害者担当保護司が関われる期間に被害者の方に寄り添い、少しでも被害者の方の力になれるよう配慮していきたいとの思いと同時に、被害者の方の講演の中で「加害者には二度と罪を犯してほしくない」との言葉を心に刻み「被害者も加害者も生まない社会」「犯罪のない明るい社会」づくりを目指していきたいと思いました。

被害者担当保護司 向井 一紀さん

被害者の悲しみ、苦しみには計り知れないものがあり、和らぐことがあっても決して忘れさることはできず、立ち直ったように見えてもちょっとした言葉で深く傷ついてしまうこともわかりました。今後は、こうした気づきを大切に、被害者の方が少しでも安らぎを覚えていただけるよう努めていきたいと思います。

大学生が養成講座を受講

今年も県内の大学の大学生35名が、VSCOの養成講座を受講しました。



岡山商科大学で模擬裁判

公益社団法人被害者サポートセンターおかやま(VSCO) 会員名簿

(2018.12.31 現在 50音順 敬称略)

会員の皆様、いつもご支援ご協力ありがとうございます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

正会員【個人】

	KIIHI	
逢沢	一郎	衆議院議員
阿部	俊子	衆議院議員
荒木	信之	弁護士
家野	昌子	非常勤講師
石井	正弘	参議院議員
石尾	玲子	
板垣	和彦	弁護士
板野	次郎	弁護士
井田千	·津子	弁護士
出原	陽平	看護師
伊東	京子	
井上		
井上	雅雄	弁護士
井上	陽介	弁護士
今村恵	美子	弁護士
上田紗	英子	弁護士
内田	満里	
浦上	雅彦	岡山市議会議員
江尻		農業
江田		元参議院議員
江見由		
大塚		岡山県議会議員
奥田		弁護士
鬼木の		岡山市議会議員
及部だ		うどん屋
加藤		弁護士
加藤		自由業
金光		弁護士
川野		
木口		県議会議員
桐野		地方公務員
久保智	泳子	

高祖日出夫	高祖酒造㈱代表取締役
作花 知志	弁護士
澤畑優太	弁護士
嶋村 稔	
城﨑 誠二	会社員
菅形 俊孝	備前焼窯元 (天地窯)
陶浪 保夫	弁護士
高井 崇志	衆議院議員
高橋 雄大	岡山市議会議員
高原 俊彦	岡山県議会議員
髙山 裕子	弁護士
田尻 祐二	岡山市議会議員
田中 紀章	
田村比呂志	弁護士
坪井 一彦	社会福祉ボランティア士
津村 啓介	衆議院議員
寺田 和子	保健師
飛山 美保	弁護士
富岡 美佳	
中島 豊爾	岡山県医療センター(理事長)
中原 淑子	岡山市議会議員
中村 純子	
鍋島 千秋	
難波 光	
新谷 恭二	株式会社リースキン岡山 代表取締役
西野 淑子	弁護士
萩原 誠司	美作市長
橋本 岳	衆議院議員
羽場頼三郎	岡山市議会議員
播間 友惠	主婦
日笠 久栄	
東 隆司	弁護士

平井 芳和	飲食店
平松 敏男	弁護士
平松 真紀	
平松 真澄	
藤原 一徳	団体職員
藤原 恭子	元岡山県看護協会会長
堀井 茂男	慈圭病院(院長)
前原 幸夫	税理士
松田 隆之	岡山市議会議員
松村 正基	会社員
松村守佑子	大正琴演奏者・みゅーじっくらいん琴友夢代表
松本 好厚	岡山市議会議員
真邉 和美	女性問題アドバイザー
三木 亮治	岡山市議会議員
水内 淳一	
宮本美穂子	弁護士
三好 英宏	弁護士
村田 吉隆	元衆議院議員
室賀 康史	室賀ネジ機工(株)代表取締役
森 陽子	心理カウンセラー
森本 治雄	税理士
森脇 正	弁護士
森脇 久紀	岡山県議会議員
安田 寛	弁護士
山﨑 悦子	前岡山県看護協会専務理事
山下 貴司	衆議院議員
山本美津子	
山本 諒平	弁護士
祐源 伸康	平松法律事務所事務員
吉田由紀子	
若林 晶子	
若林 久義	会社役員

以上の他に匿名希望20名、合計116名です。

正会員【団体】

株式会社 小倉組

弁護士法人 菊池綜合法律事務所

株式会社 サンエイシステム 蜂谷工業 株式会社

以上の4団体です。

賛助会員 【個人】

赤木	泰之
安藤	稔枝
池内	俊介
池本し	おり
池本	茂
石井	光子
石川	浩子
石原	正一
石原	美保
出井	敏雅
伊藤	述史

井上ヒロ子
猪木 健二
今井 桂子
今井 洋子
井村 誠
岩津 安圀
上山 俊明
江尻美恵子
大川 邦子
大熊 公平
大熊 昌子

大角	昌子	
太田垣弘枝		
大橋	孝叔	
大森	一枝	
大森	正晴	
大森	葉子	
岡崎	尚子	
岡田	明子	
岡田	孝文	
奥津	光生	
小野	恭平	

小野富貴子	
小埜 雄一	
片岡由紀子	
片山 和良	
片山 幸子	
勝浦 聖智	
勝浦 義政	
河端 武史	
苅田 實	
木口 兵衛	
木村 健治	

木村	佳子
日下	知子
熊代	哲士
黒瀬	治樹
蔵野身	美佐子
小林	淳
崎本	敏子
笹井	初音
沢田	直子
芝田	正剛
嶋村	洋子

	智久
	泰子
神土	纯子
菅形 🕏	基道
杉山	奉文
鈴木	E二
鈴木	式重
	由美
妹尾さ	くら子
妹尾 ī	直美
高橋	茂

高橋	吉保
田中貴	人美
瀧本	孝
谷口	衛
千脇	幹子
寺田加	1代子
土器	悦子
中川	佳子
長崎	司
永瀬	隆一
中塚	多聞
千脇寺田加土器中川長瀬	幹子 叶子 悦子 佳子 言 隆一

中西	邦夫
	芳子
中村	叡子
中村元	太郎
中山	淳子
中山	正汎
中山美	恵子
難波	賀惠
新保	恭三
二階堂	保
仁木	壯

西村	卓代	
花田	雅行	
林	澄子	
日笠	栄	
東	政代	
疋田	克繁	
平田	祥之	
平部	一美	
藤井	惠子	
藤原	忠文	
藤原悠		

船越	利彦
船田	幸枝
逸見	知子
本城	宏一
正木	さわ
松村皇	星東美
松本	一三
三浦	一男
三浦	嗣男
水川϶	美代子
水舟	雪枝

光岡	孝志
光畑	俊行
三村日	日出子
三村美	美智子
三宅	邦子
三宅	登
三宅	洋子
向井	一紀
村上	章子
森本	政美
八代	武利
σ (1b.) z ∃	正力 圣治:

安信	政男	
矢野	有哉	
山﨑	真男	
山﨑	資司	
山田	成一	
山水	占喜子	
山本	賢昌	
和田	昌郎	
渡辺	節生	

以上の他に匿名希望 113 名、合計 243 名です。

賛助会員 【団体】

株式会社 アイスライン
アサヒ通信システム 株式会社
大塚ウエルネスベンディング 株式会社
株式会社 大手饅頭伊部屋
岡山医療生活協同組合
岡山県貨物運送 株式会社
岡山県民共済生活協同組合
公益社団法人 岡山県看護協会
一般社団法人 岡山県損害保険代理業協会
岡山市連合婦人会
おかやま信用金庫
岡山タイヤ販売 株式会社
医療法人社団 操仁会 岡山第一病院
岡山トヨペット 株式会社
社会福祉法人 岡山博愛会
株式会社 岡山マツダ
オリエンタルフォレスト治療院
極光冷電 株式会社
一般財団法人 倉敷成人病センター
クラブン 株式会社
株式会社 廣栄堂
有限会社岡北ヤマカワ
サンコー印刷 株式会社
山陽事務機株式会社
株式会社 山陽新聞社
株式会社 サンラヴィアン
公益財団法人 慈圭会 慈圭病院
医療法人清水医院

医療法人清水レディス・クリニック
昭和ホンダ販売 株式会社
新和建材 株式会社
株式会社 ストライプインターナショナル
株式会社 セキュリティハウス
総社花萬 株式会社
株式会社 中国銀行
株式会社 トマト銀行
株式会社 トンボ
ナカシマプロペラ 株式会社
中谷興運 株式会社
医療法人 なかの歯科クリニック
有限会社 中村保険企画
ネッツトヨタ山陽 株式会社
株式会社 バーズコミュニケーション
株式会社 馬場総合鑑定所
備北信用金庫
岡山市久米南町組合立国民健康保険 福渡病院
福山電業 株式会社
更生保護法人 備作恵済会 古松園
三井住友海上火災保険 株式会社 岡山支店
みのるホテル事業 株式会社 (後楽ホテル)
株式会社 山田養蜂場
一般財団法人 共愛会 芳野病院
医療法人たくふう会 旭竜クリニック
有限会社 e.k コンサルタント
株式会社 TRANSITION (CARLADY FLASH)

以上の他に匿名希望5団体、合計60団体です。

高原勝哉前代表理事を偲ぶ

高原勝哉先生は、8月17日享年74歳で旅立たれました。ご冥福をお祈りいたします。

先生は、「被害者の人権・被害者支援の重要性」への社会の認識が不十分な時代から、被害者支援に熱い思いを持っておられました。被害者支援ネットワーク中四国ブロックの理事としての実践活動を基に、2003年11月29日任意団体としてVSCOを設立されました。

その後も、早期援助団体の指定や公益社団法人の認可など支援態勢の強化を図るなど、今日の発展へと尽力



発足当時の支援員研修会の資料は、量質ともに豊富で、細かに丁寧にご指導いただきましたが、高度な内容が多く必死で学んだことを懐かしく思い出します。

代表理事を退かれてからも、被害者支援弁護士としてご活躍いただいておりましたが、突然の訃報に、残念としか言いようがありません。

今後も、VSCO一丸となって先生の遺志と熱意を引き継ぎ、被害者支援活動を実践してまいります。

平成30年12月

被害者サポートセンターおかやま VSCO 一同

被害者支援員養成講座を受講してみませんか?

(被害者サポートセンターおかやま《VSCO》主催)

被害者サポートセンターおかやま(VSCO)は、犯罪による被害者や、その家族・遺族の方に対して、電話・面接相談や警察・検察庁・裁判や医療機関・行政へ付き添うなどの支援を行っています。

2019年度の支援員養成講座を開催し、支援員(第15期生)を募集します。

研修委員会の判断により、受講をお断りすることがあります。

「人間として被害者をほっておけないと考える感性が豊かな方」の応募を期待します。

【応募資格】

- ★ 被害者支援の活動に参加できる方
- ★ 被害者支援について学びたい方
- ★ 職務上、被害者支援について学ぶ必要 のある方
- ★ 被害者支援ボランティアとして活動したい 大学生

【会場】 きらめきプラザ (岡山市北区南方)



(基礎講座のひとこまです)

相談・支援は無料 秘密厳守

犯罪被害相談電話

086-223-5562

性犯罪被害専用電話

086-206-7511

月~土 10 時~16 時

(ただし、祝日及び年末年始を除きます)

基礎講座

定 員 一般30名・学生60名 講座回数 6回

資料代 6,000円(初回一括・ただし大学生は無料)

申込締め切り 平成31年5月8日(水)申込用紙は下記サイトから

時間 13:30~16:30

1回 5月18日(土) 開講式、被害者の声、支援員としての体験から、被害者支援の歴史、VSCOの活動内容等

2回 5.6月中 刑事裁判の傍聴と解説

3回 6月 1日(土) 交通事故被害者のサポート、悪徳商法など消費者被害について 4回 6月15日(土) 性犯罪被害者のサポート、ストーカー被害者のサポート

5回 6月29日(土) 児童相談所の働き、経済的被害の回復について 6回 7月13日(土) 最愛の家族の命を奪われた遺族の立場から、閉講式

基礎講座修了者(原則皆勤の方)の中から希望で(審査あり)



中級講座

定 員 20名 講座回数 6回

資料代 6,000円(初回一括)

時間 13:30~16:30

1回 7月27日(土) 開講式、特別講演「支援者のストレスとサポート」、自分自身を知りましょう

2回 8月31日(土) 電話相談の基礎

3回 9月14日(土) 電話相談の実際

4回 9·10月中 検察庁見学 5回 9月21日(十) 直接支援の実際(1)

6回 9月28日(土) 直接支援の実際(2)・(3)、閉講式

本人の希望と面接、VSCOの審査



被害者支援補助員として登録

~詳しくは、VSCOホームページをご覧ください~

VSCOおかやま



岡山県公安委員会指定犯罪被害者等早期援助団体 全国被害者支援ネットワーク加盟・民間支援団体

公益社団法人被害者サポートセンターおかやま

(VŠČÕ)

事務局 〒700-0818 岡山市北区蕃山町1-20

岡山県開発公社ビル6階

電話 (086)223-5564 FAX (086)201-5564

E-mail vsco@vsco.info
H P http://vsco.info





この機関誌は、「赤い羽根共同募金」の助成を受けて作成しています。